

2025年12月23日
株式会社三菱UFJ銀行
キリンビバレッジ株式会社

三菱UFJ銀行関東エリア134支店、分別徹底から始まる「ボトル to ボトル」

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一、以下三菱UFJ銀行）とキリンビバレッジ株式会社（代表取締役社長 井上 一弘、以下キリンビバレッジ）は、カーボンニュートラル社会の実現と循環型経済の促進を目的として、三菱UFJ銀行の関東エリア134支店（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）を対象に、使用済みペットボトルの分別を徹底した「ボトル to ボトル」水平リサイクルの取り組みを6月より開始しました。

【取り組み実施の背景】

国内では、使用済みペットボトルは回収後、さまざまな用途にリサイクルされています。その中で、新たな化石由来原料を使わず、ペットボトルとして再び循環させる「ボトル to ボトル」水平リサイクルの割合は、2024年時点で37.7%^{*1}となっています。

特に事業所や商業施設などから回収される使用済みペットボトルは、家庭から回収される使用済みペットボトルとは異なり、飲み残しや異物の混入が多く、水平リサイクルを妨げる要因と指摘されています。

※1 PETボトルリサイクル推進協議会「PETボトルリサイクル年次報告書2025」

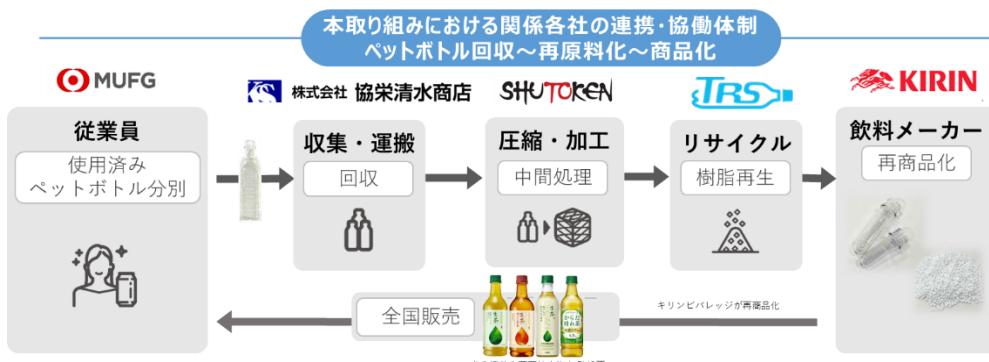
【取り組み概要】

今回、三菱UFJ銀行とキリンビバレッジは、三菱UFJ銀行の関東エリア134支店で、飲み残しゼロや異物の混入が少ない状態での使用済みペットボトルの回収徹底を目指し、水平リサイクルを実施します。

このうち、東京23区以外の関東エリア58支店^{*2}から回収された使用済みペットボトルは、豊通ペットリサイクルシステムズ株式会社（代表取締役社長 金沢 良親）の「異物混入の少ない使用済みペットボトルを処理する専用ライン（以下、異物混入の少ないライン）」へ持ち込みます。これまで利用していた「異物混入を前提とするライン」での水平リサイクルと比較し、消費するエネルギーが少なくなるため、CO2排出量削減が見込まれます。また、「異物混入の少ないライン」では、使用済みペットボトルから得られるリサイクル樹脂の割合である歩留まり向上が見込まれます。

その後、キリンビバレッジを始めとする飲料メーカー（リサイクルPET樹脂を使用した容器の飲料を製造します。

※2 東京23区の76支店分は回収時の輸送方法の制約から、引き続き「異物混入を前提とするライン」へ持込み



【取り組みの期待効果】

本取り組みでは、三菱 UFJ 銀行の関東エリア各支店において飲み残しそれぞれとキャップ・ラベル・ボトルの分別の徹底を目指すことに加え、収集・運搬、圧縮・加工、リサイクルの各工程において各事業者協力の下、他の異物混入を防止することで、ライン工程の短縮による CO2 排出量削減、リサイクル PET 樹脂の歩留まり増加、キャップのリサイクル原料としての活用などの効果が期待されます。

今後、三菱 UFJ 銀行では、従業員の環境意識の醸成、飲み残しそれぞれ・分別の徹底を継続した上で、まだリサイクルし切れていないラベルのプラスチック原料としての活用方法や使用済みペットボトルの輸送方法を見直し、より環境負荷の低いリサイクル方法の実現を目指します。キリンビバレッジは、事業所から回収される使用済みペットボトルを、「異物混入の少ないライン」でリサイクルするという本取り組みを、より多くの事業者へ展開していくことを目指します。

【本取り組みの徹底に向けた環境意識醸成、回収方法の工夫】



支店に掲示された啓発ポスター



ペットボトル圧縮回収機



キャップ専用回収ボックス

【三菱 UFJ フィナンシャル・グループの資源循環への取り組み】

三菱 UFJ フィナンシャル・グループでは、中期経営計画 2024-2026において、「社会課題の解決」に向けた優先的に取り組む 10 の課題の一つとして「循環型経済の促進」を掲げており、資源循環への国際的な意識の高まり、ごみ問題の深刻化、資源の保全といった観点から、持続可能な形で資源を利用する循環型経済への移行に向けて、さまざまな取り組み^{※3}を実施しています。

※3 MUFG における環境負荷低減に向けた資源循環への取り組みは、MUFG Climate Report（気候変動レポート）、並びに HP (Sustainability at Work) をご参照ください。

MUFG Climate Report <https://www.mufg.jp/csr/report/progress>

Sustainability at Work <https://www.mufg.jp/csr/atwork/>

【キリンビバレッジの資源循環への取り組み】

キリングループは、「キリングループ環境ビジョン 2050」を策定し、「容器包装を持続可能に循環している社会」を目指すことを宣言しています。また「キリングループ プラスチックポリシー」では、2027 年までに日本国内における PET 樹脂使用量の 50%をリサイクル樹脂にすることを掲げています。

(お客様お問い合わせ先)

キリンホールディングス株式会社 お客様相談室（フリーダイヤル） 0120-770-502

企業情報 Web サイト <https://www.kirinholdings.com/>